

NAVIGATION

— 進路指導部便り — 第 11 号 2020 年 2 月 3 日

発行 夢野台高等学校
進路指導部

最後の大学入試センター試験

1990 年 1 月に始まった大学入試センター試験。今回で最後となる試験が終了しました。本校からは 3 年生 220 名が受験しました (79.7%)。国公立大学はもちろん、センター試験を利用する大学は、4 年制私立大学でも約 87% に及びます。来年度から始まる大学入学共通テストでもこの動きに大きな変更はなく、私立大学志望者も併願対策として有効に活用することが必要です。

以下、センター試験の概況を河合塾 Kei-Net より引用して紹介します。

2020 年度センター試験の志願者数は 557,699 人 (昨年 576,830 人: 前年比 96.7%)、本試験の外国語受験者数も 519,303 人 (昨年 538,603 人: 前年比 96.4%) と、いずれも減少しました。

大学入試センターが発表した志願者数の現卒別の内訳を見ると、現役志願者数は昨年の 464,950 人から 452,235 人と 12,715 人減少 (前年比 97.3%) しました。現役志願者数の減少は 18 歳人口減の影響です。また、2021 年から始まる「大学入学共通テスト (以下、共通テスト)」を前に、2019 年度入試から安全志向がみられ、今年の既卒生は減少したものと推測されます。これを裏付けるようにセンター試験の既卒等志願者数も昨年の 111,880 人から 105,464 人と 6,416 人減少 (前年比 94.3%) しました。

共通テストを翌年に控え、出題傾向の変化も注目されました。全体的にはこれまでのセンター試験の傾向を踏襲した出題でしたが、「国語」の漢文では本文中で詠まれた状況に即したイラストを選択させるといった新しい形式の設問がみられました。また、対話形式や日常の事象からの出題、複数の文章や図表などから考察させる問題など、共通テストを意識した問題も各科目で出題されました。たとえば、「倫理・政治・経済」では人工知能 (AI) やノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイなど時事問題が散見されたほか、「物理」では教科書には載っていない形状のコンデンサーに関する問題が出題されました。

次に、大学入試センターが公表 (1 月 24 日) した主な科目の平均点中間集計結果を紹介します。

科目	平均点	満点	科目	平均点	満点
国語	119.33	200	化学基礎	28.2	50
世界史B	62.96	100	生物基礎	32.1	50
日本史B	65.45	100	物理	60.69	100
地理B	66.35	100	化学	54.8	100
倫理・政治・経済	66.51	100	生物	57.56	100
数学Ⅰ、数学A	51.89	100	英語	116.32	200
数学Ⅱ、数学B	49.05	100	リスニング	28.79	50

3 年生は、センター試験の結果を受けて、国公立大学の出願校を決定し、出願をします。国公立大学は、基本的に前期日程 (試験実施: 2 月 25 日～)、中期日程 (同: 3 月 8 日以降)、後期日程 (同: 3 月 12 日以降) の 3 回までの受験機会がありますが、出願はすべて 2 月 5 日までとなっています。また、前期で合格した大学に入学手続きをした場合、中期、後期を受験していても合格者になることはできません。

特集 大学入試改革 その 8 ～大学入学共通テスト～

来年 1 月から始まる大学入学共通テストで、国語と数学の記述式問題の導入が見送られたことを受け、文部科学省と大学入試センターは 29 日、出題や

解答時間などを見直し、発表しました。以下、その概要を河合塾 Kei-Net より引用して紹介します。

大学入学共通テスト「出題方法・問題作成方針」再公表

1 月 29 日

■国語の試験時間は 80 分に戻る

共通テストの問題作成方針等は昨年 6 月に公表されていた。ところが、昨年末に記述式問題の導入見送りが決まり、国語と数学①については解答方法・試験時間を見直すことされた。今回発表された出題教科・科目、問題作成方針はこれを反映したものである。国語の試験時間は 100 分から 80 分になった。記述式がなくなり、大問数は 4 問 (200 点) となった。このうち「近代以降の文章」が 2 問 100 点、「古文」が 1 問 50 点、「漢文」が 1 問 50 点の構成である。現行のセンター試験の試験時間・配点に戻った形となった。

なお、問題作成方針は記述式部分以外に変更はなく、以下のように示された。

言語を手掛かりとしながら、文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求める。近代以降の文章（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章）、古典（古文、漢文）といった題材を対象とし、言語活動の過程を重視する。問題の作成に当たっては、大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた、複数の題材による問題を含めて検討する。

近代以降の文章では、センター試験では出題のなかった実用的な文章が出題される可能性^①があるほか、複数の題材による問題の出題なども予告されており、センター試験からの変化を感じるものとなっている。

■数学①は記述式が見送られても 70 分に

数学①の試験時間は 70 分のまま変更されなかった。記述式問題導入に伴いセンター試験時より 10 分延長されていたが、国語とは異なり、試験時間はそのままとなった。以下は数学全体の問題作成方針である。

数学的な問題解決の過程を重視する。事象の数量等に着眼して数学的な問題を見いだすこと、構想・見通しを立てること、目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順に従って数学的に処理すること、及び解決過程を振り返り、得られた結果を意味付けたり、活用したりすることなどを求める。また、問題の作成に当たっては、日常の事象や、数学のよさを実感できる題材、教科書等では扱われていない数学の定理等を既知の知識等を活用しながら導くことのできるような題材等を含めて検討する。

数学についても記述式部分以外に変更はなく、試行調査で見受けられた新しい傾向の出題が検討されている。

■英語は大学入試英語成績提供システム導入見送りに伴う見直しはなし

英語については、昨年 11 月にすでに 6 月公表の内容から見直しはしないことが発表されていた。

センター試験からの変更としては大きく 3 点挙げられる。「リーディング」と「リスニング」の配点比は均等（各 100 点）となる（センター試験時の配点は筆記（200 点）、リスニング（50 点））。

また、発音、アクセント、語句整序等を単独で問う問題は出題しないとしている。センター試験ではすべて 2 回読みとしているリスニングの読み上げ回数については、問題数の充実を図ることによるテストの信頼性向上を目的に、1 回読みと 2 回読みの両方を含む構成となる。

2 年目以降の共通テストの国語・数学の試験時間、大学入試英語成績提供システム導入延期に伴う英語の出題等については今年 6 月頃公表する予定としており、さらなる変更^②に含みをもたせた形だ。

以上のように、マーク式だけになりましたが、考える時間が必要な問題が増えることが予想されます。センター試験の過去問題を解くことに加えて、模擬試験などで様々なタイプの問題を解く経験を重ねていくことが必要です。

リーディングとリスニングの大学別配点比率については前号でも紹介しましたが、その後さらに公表した大学がありますので今号でもまとめておきます（難関大および、近畿地区、中国地区のみ。四国地区は未発表）。

1 : 1	北海道、一橋、三重県立看護、福知山公立、公立鳥取環境、広島
2 : 1	三重
3 : 1	東北、名古屋、大阪
4 : 1	京都府立（文、生命環境）、神戸、神戸市看護、奈良教育、奈良女子、鳥取、島根、岡山、広島市立、山口
その他	京都府立 公共政策（10 : 1）、下関市立（7 : 3）

（1 月 28 日現在 河合塾調べ）

1 日医師体験 1 日看護師体験

すでに教室掲示をしています。左記プログラムへの参加応募を行っています。医師や看護師を目指している人はぜひ参加してほしいと思います。申し込み期限を 2 月 10 日（月）16 時までとします。希望者は、進路指導部中村先生まで申し出てください。



みなさん、お気づきでしょうか？立体看板！（と呼べるほど立派なものではありませんが…）。南館から職員室に向かう廊下の防火扉に「進路指導室より」というコーナーを設けました。1 日看護師体験のような案内や、大学からの案内などを紹介するスペースにしていきたいと思います。時折目をとめてくださいね。